

1 ICT活用のポイント

- ①対話活動が効果的に行えるようにするため「共有化」の機能の活用を図った。
- ②「書く」活動において、自らの考えを素早く、効果的に表現するためのツールとして活用を図った。

2 取組の概要

① 対話活動に関わって

個人思考の段階でまとめた自分の考えを全体で共有できるWeb上のファイルに提出し、お互いの考えを音声言語を介さずに交流を行った。

【ICT活用のメリット】

- ・指導者にとって、意見集約が容易。考えを比較提示できる。
- ・考えを共有化できる。⇒多くの多様な考えに触れられる。
- ・思考を視覚化できる。⇒シンキングツールなども活用すると効果的。

② 「書く」活動に関わって

作文用紙に鉛筆で記載していた内容をタイピングで入力することで、容易に改行したり、表現を吟味したりすることができるようになった。

【ICT活用メリット】

- ・構成表の作成や情報の収集などもタブレット上で行うことで、思考の流れを記録化することにつながり、適切な評価ができる。
- ・文章をより良い表現にするため構成を見直したり、表現を直したりすることが容易なので、書く活動に意欲的に取り組む児童が多くなった。

③ ICT活用に関わる留意事項

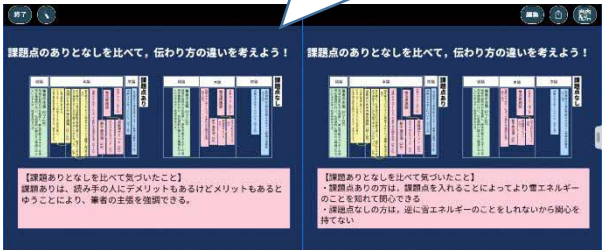
- ・情報の扱い方に関する指導
- ・タイピングなどの技能の定着
- ・学習規律の徹底

3 使用したソフトや機能

- ・授業支援クラウド 「ロイロノート」
～提出箱における「共有」機能

○対話活動 ア 考えの比較

任意の児童同士の考えを比較し、共通点や相違点を話し合う。

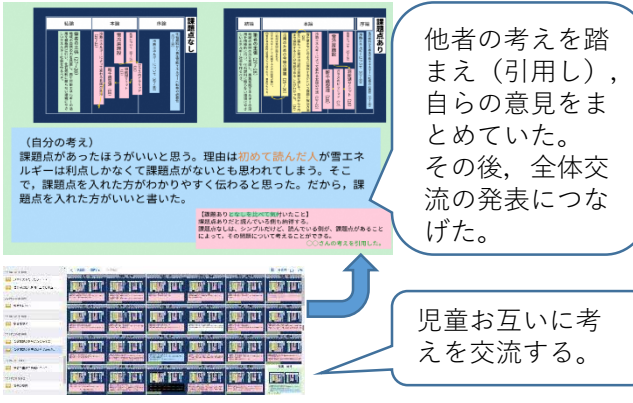


課題点のありとなしを比べて、伝わり方の違いを考えよう！

【課題ありとなしを比べて気づいたこと】
課題ありは、読み手の人にメリットもあるけどデメリットもあると思うことにより、筆者の主張を強調できる。

【課題ありとなしを比べて気づいたこと】
課題ありの方は、課題点を入れることによって雪エネルギーのことを知れて関心できる。課題点なしの方は、逆に雪エネルギーのことをしれないから関心を持たない。

イ 自己と他者の考えを共有化



他者の考えを踏まえ（引用し）、自らの意見をまとめていた。その後、全体交流の発表につながった。

（自分の考え）
課題点があったほうがいいと思う。理由は初めて読んだ人が雪エネルギーは利点しかなくて課題点がないとも思われてしまう。そこで、課題点を入れた方がわかりやすく伝わると思った。だから、課題点を入れた方がいいと思う。

（課題ありと課題なしの両方がある場合）
課題ありだとよくわかると思う。課題点がある方が、課題点があることによって、その課題点について考えることができる。課題点がない方は、課題点がないから関心を持たない。

児童お互いに考えを交流する。

【対話活動を活性化するための活用】